令和２年度学校評価総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校　Ｎｏ１

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	学校関係者の意見	
１学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員研修を充実し，意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ，教育環境を整備し，特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き，校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。 (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ②本校教育への理解と関心を高めるための積極的なＰＲ ③教職員間の協力体制の強化 ④学校行事の公開 ⑤地域貢献，ボランティア活動の推進	① 職員研修会の実施回数 10回（8回） ②-1 体験学習の参加者数 320名（515名） 体験入部の参加者数 200名（287名） ②-2 ＰＴＡ総会・学年部会への参加率　33%（32.6%） PTA清掃活動を実施 年1回(1回) ②-3 学校ホームページの更新回数およびアクセス数 640回（635回） 162,000ｱｸｾｽ(208,751ｱｸｾｽ) ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報　350回（336回） ③ 職員間協力度　100%（100%） ④-1 学校行事の新聞掲載回数 30回（12回） ④-2 文化祭来場者　1,000名(935名) ⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名（475名） ⑤-2 清掃活動参加（地域や校内を含む）　1,500名(1,000名)	① 職員研修会の実施回数 14回 ②-1 体験学習の参加者数 0名=中止 体験入部の参加者数 0名=中止 ②－2 本年度ＰＴＡ総会は書面決議での実施。決議書回収率　教職員100%　保護者94.1% PTA清掃活動は全校生徒と保護者36名で7月14日実施予定であったが,当日雨天のため中止となった。 ②-3 学校ホームページの更新回数およびアクセス数　657回 244,033 アクセス 2020年1月27日 累積 879667ｱｸｾｽ 2021年2月15日 累積1123700ｱｸｾｽ ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報　215回（1/28まで） ③ 職員間協力度　100% ④-1 学校行事の新聞掲載回数 9回 ④-2 文化祭来場者　0名=非公開 ⑤-1 各種ボランティア活動参加 475名 ⑤-2 清掃活動参加 （地域や校内を含む）　1,000名	B — B B A A B	B （所　見） ① 新型コロナウイルスの影響で生徒臨休や密を避けるために学校行事等の縮小が余儀なくされる中，Zoomなどのオンラインを活用した取り組みが増えた。この現状に対応するため，教職員を対象としたZoom等の研修を増やした。また，コンプライアンス研修会や情報セキュリティに関する研修会等を短時間で複数回に分けて実施するなど，現状に応じた教職員の資質向上を図った。 ②-1 新型コロナウイルス感染症の影響により体験学習，体験入部を実施することができなかった。 ②-2 保護者の参加を促すため事前の広報に努めたい。文化祭バザーについてはコロナ対策のため実施できなかった。 ②-3 新型コロナウイルス感染症の影響で部活動の更新がかなり減少した。一方,ホームページからの全校生徒に対する情報発信も多かったこともあり，アクセス数も順調な状態を維持している。 ②-4 学校活動は活発であり,広報も充実している。 ③ 学校運営等について全職員が協力的に関わることで，教育活動全般において成果を上げることができた。 ④ 学校行事の近隣の方々への案内はできなかったが,オンラインでの交流や,ホストタウン活動として国歌を活用した交流を実施した。(小学校,中学校,特別支援学校) ⑤ 各種ボランティア活動参加数においては目標数を上回ることができた。清掃活動参加数においては,ひまわりを植えたり,水やり,種の収穫を主に行った。活動を通して阪神大震災を振り返る機会を得て災害を教訓とすることができた。	・学科編成では，新学科や各コースの目標等が明確に示されており，分かりやすい。 資格取得以外でも，生徒の興味・関心に沿った能力を伸ばす指導をしていただきたい。 ・Zoomでのホームルーム活動や授業，課題チェック，進路指導等オンラインを利用した取組が実施され，現在の状況にすばやく対応されている。 先生方も研修会に参加され尽力されている。 ・学校行事については新型コロナウイルス感染症の影響を受け，中止せざるを得なかったものもあるが，それについては仕方ない。 しかし，その状況の中でも，様々な対応，工夫をされ実施されたことは,充分評価できる。 ・ホームページで，学校行事がわかるようにカレンダーを配置してほしい。	① 現在取り組んでいる有効な研修を継続するとともに，これからの教師に求められる資質・能力を見極めながら適切な研修を実施する。 ②-1 新型コロナウイルス感染症の動向を考慮しながら，リアル開催かオンライン開催かなど適切な情報提供を目指す。 ②-2 来年度の中国四国高Ｐ連大会での発表に向け，準備を進めていきたい。役員間のLINEによる連絡体制は有効なので，今後とも継続したい。 ②-3 今後も更新回数及びアクセス数アップに努めたい。 ②-4 今後もホームページ，マスコミなどへの広報を積極的に行いたい。 ③ 各校務分掌や各学年に計画力と実行力のある主任を配置することで，協働的な組織体制を構築し，さらに次世代のリーダーを育成する取り組みが必要である。 ④ これからの学校行事は，ホームページや生徒会を中心にアピールに努めたい。専門高校としての特色ある学校行事を目指し，さらなる工夫・改善を図っていきたい。 ⑤ 来年度も各種ボランティア活動や清掃活動を行い，積極的な態度の育成や美化に努める心を育てたい。 また，ひまわり畑の草抜き，整備などを通してできるだけ多くの生徒が関われるような取り組みを目指したい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し，積極的な参加を呼びかける。 ②-2 ＰＴＡ総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確実に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用,広報に努める。 ②-4 ホームページ，マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ ホウ・レン・ソウを徹底するとともに課単位によるミーティングを行い，業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動，各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに，自主的に清掃活動を実施させ，物心両面からの美化活動に努める。	① 教育委員会によるコンプライアンス研修をはじめ外部からの講師を招いての各種研修は，新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが，校内のみの研修に切り替え実施することにより，職員の資質向上を図った。 ②-1 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 ②-2 ＰＴＡ総会についての案内は2回行った。役員への連絡は文書と併せ，LINEで確認できる設定にした。 ②-3 新型コロナウイルス感染症の影響があり，部活動の更新が大幅に減った。一方,メールによるお知らせを増やすなど，保護者などへの連絡を積極的に行った， ②-4 ホームページ，マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報を行っている。 ③ 各課とも，必要に応じて勤務時間外であってもミーティングを実施し，業務遂行のための共通理解を深めた。 ④-1 新型コロナウイルスの影響もあり,オンライン徳商デパートでは取材を受けたものの，それ以外の学校行事の取材を受けることが少なかった。 ④-2 新型コロナウイルス感染防止の観点から,今年度の学校祭は短縮かつ外部見学者無しで行った。 ⑤ 今年度は春の清掃活動の際に，「はるかのひまわりプロジェクト」3年目の活動として,ひまわりを植え育てるボランティアを実施した。				

【備考 評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０ ％未満～７０％以上達成　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　Ｅ：６０％未満達成

令和２年度学校評価総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校　Ｎｏ２

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
２学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため，基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し，学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り，専門的な知識・技術を習得させ，スペシャリストへの道を拓く。 (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展	① 自習率　1.0%以下（0.89%） ② 授業満足度　80%以上(79.9%) ③-1 全商検定３種目以上１級合格者　40名(18名) ③-2 技能奨励賞　60名(49名) ③-3 日商簿記検定２級合格　10名(7名) ③-4 ITパスポート試験合格　1名(2名) ③-5 建設業経理士２級合格（3月11日試験 5月結果発表）　3名(0名) ④-1 図書館利用者数　3,600名　(3,515名) ④-2 一人あたりの年間読書冊数　4.5冊（4.48冊） ④-3 一人あたりの年間貸出冊数　1.8冊（1.7冊） ④-4 図書館通信の発行回数 12回 ⑤-1 地域連携活動テーマ数　13ﾃｰﾏ（13ﾃｰﾏ） ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト参加チーム数　2種4ﾁｰﾑ（1種2ﾁｰﾑ） 企業とのコラボ回数 50回(50回) ⑤-3 市場流通可能な商品開発数　5商品(5商品) ⑤-4 実践的授業の試行　5回(5回)	① 自習率　0.19% ② 授業満足度　80.5% ③-1 全商検定３種目以上１級合格者　31名 ③-2 技能奨励賞　37名 ③-3 日商簿記検定２級合格　1名 ③-4 ITパスポート試験合格　3名 ③-5 建設業経理士２級受験者 2名（9月13日試験日） ④-1 2,720名　(75%) ④-2 4.32冊　(3397冊/785名) ④-3 1.8冊　(1434冊/790名) ④-4 10回　(83%)（以上1/22現在） ⑤-1 地域連携活動テーマ数　13テーマ ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト　0チーム(四国大学等主催)　5チーム(大阪商業大学主催) ビジネスプランコンテスト　0チーム（日本政策金融公庫主催）　0種0チーム 企業とのコラボ回数　50回 ⑤-3 市場流通可能な商品開発数　5商品 ⑤-4 実践的授業試行数　5回	A A B C C A B B B A B A — A A	B （所　　見） ① 新型コロナウイルスの影響で臨時休校や学校行事，校外行事の中止が相次いだため，昨年度より授業振り替えが少なかった。そのため，昨年より自習率が減少した。 ② 全学年で，授業に対する満足度は昨年度より若干増加した。アンケート調査で目標通り検定取得ができたと感じている生徒が増えている。 ③ 早朝補習や検定前１週間に放課後補習等を実施し検定の合格者増に取り組んだ。その結果，全商３種目以上１級合格者数は31名に改善した。 新型コロナウイルス感染症の拡大により，多くの検定試験・競技会等の実施見送りが相次ぎ，目標値に達することが困難になった。建設業経理士２級は簿記部での取り組みであり，2名受験し2名とも合格であった。各種資格の取得に向けて，引き続き計画的に学習する環境の整備が急務である。 ④ ２学年の「朝読」の取り組みや，各教科との連携や，「図書館通信」などの配布により，生徒一人あたりの年間貸出冊数・年間読書冊数は改善の方向にある。	・図書館の利用者数は，新型コロナウイルス感染予防のため，一度に利用する人数・座席数の制限があり，減少したのは仕方ない。	① 可能な限り授業振り替えを実施しているが，校務の多様化もあり，年々振り替えが困難になっている。 教職員の負担軽減に向けた検討も必要である。 ② 昨年度と同様に平日の自宅学習時間が０の生徒が，全体の３割を占めている。部活動の活動時間との関係も否めないが，少なくとも１時間から２時間程度の学習時間は必要である。 ③ 高度資格については，授業や補習だけでは限界がある。１年次から家庭学習時間の確保に努めるとともに，適切な課題等を出すことにより学習意欲の向上と定着を図る必要がある。そのためにも，部活動への入部を促進し，１年次のオリエンテーションや各学年集会を通して資格取得の重要性を認識させたい。 ④ 次年度は工夫しながら図書館通信の発行・ビブリオバトル・図書館祭などの取り組みを実施する。また，各学年団と協議の上，「朝読」の取り組みも継続させたい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 学校行事の精選を行うほか可能な限り振り替えを行い，授業時数を確保する。 ②「学力向上」の実現のため生徒の実態にあった指導及び工夫改善を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 図書委員を通じたホームルームでの広報活動や，イベントの企画を行い，入館しやすい図書館作りに努める。 ④-2 各教科と連携し，図書館の利用を推進する。 ④-3「ミニ・ビブリオバトル」「図書館祭」「POP作成」等を充実させ，広く啓発活動を行う。 ④-4「図書館通信」が生徒に身近に感じられるよう工夫を凝らす。	① 今年度始めは，新型コロナウイルス感染症による休校や出張キャンセルのため授業の振り替えはほとんど無かったが，二学期以降は授業の取り返しに追われ，通常以上の過密スケジュールとなった。その中でも日程調整や時間割の工夫で，休校による授業の遅れは解消された。 ② 電子黒板の活用方法として，わかりやすい授業の展開はもちろん，コロナ禍における密の回避のため，一カ所に集合せず，各教室に居ながら参加できるリモートでの学校行事を工夫して行った。 ③ 早朝補習や長期休業中の補習などを計画的に実施した。また，簿記検定や情報処理科の情報処理検定前１週間は放課後１時間程度の補習を実施することにより，検定合格への対策と生徒の意識向上を図った。 ④-1 ３選「小論文・国語表現」受講者によるPOPをロビーに展示した。 ④-2 ２学年の協力で「朝読」の時間が確保できた。 ④-3 ミニ・ビブリオバトル及び図書館祭は実施を見送った。 ④-4「図書委員のおすすめ本」などを発信することができた。				

		⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施 ⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへの参加 課題研究における活動の実施 企業との連携による学習活動の実施 ⑤-3 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施 ⑤-4 ICTや効果的な教授法等を導入した主体的・能動的な学びの実施	⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部の校内模擬会社ComComを中心に，地域や企業と連携した活動を積極的に展開した。徳島県高校生産業交流展等に出展し，地域社会や企業等と連携した教育活動を積極的に広報した。 （展開活動） ・美波町，牟岐町との連携 ・JICA・徳島県連携事業 ・地元企業Webページ作成支援 ・防災キャンプの企画・運営 ・農工商連携６次産業化プロデュース事業 ・徳島県中小企業団体青年中央会提携事業 ・スタジアム学園祭 ・商品開発 ・ボランティア活動（インターアクト） ⑤-2 四国大学共催によるビジネスアイデアコンテストは，今年度新型コロナウイルス感染症の影響から実施が見送られた。 ⑤-3 地域企業と連携し，ホストタウン国の商品開発に取り組んだ。また，12月の徳商デパートでは，ホストタウン活動の一環として実施した。 （開発した商品） ・ハチャプリ（ジョージアパン） ・ヤシ砂糖パウンドケーキ ・モモ（ネパール餃子） ・ドイツドーナツ ・カレーパン ⑤-4 商業科の授業の中で，ICTの技術を活用し，主体的に課題に取り組んだ。 ・商品開発 ・課題研究 ・総合実践	⑤ オリンピックのオンラインホストタウンイベントや徳島県ビジネスチャレンジメッセ等へ積極的に参加し，本校が取り組んでいる多くの教育活動を広報することができた。 　また，校外徳商デパートでは，できるだけ多くの生徒に地元企業との連携を体験させるとともに，地域に貢献できる実践力を養うことに繋げている。企業関係者と交渉する能力は，校外徳商デパートを通じて確実に向上している。 　新型コロナウイルスの影響により，形を変えて実施したオンライン徳商デパートでは，HPやPR映像を作成するとともに，ホストタウンを意識し，カンボジア，ジョージア，ドイツ，ネパールの食文化を紹介する商品を開発しオンライン販売を行った。 　新型コロナウイルスの影響は多方面に及び，県内で開かれる予定であったビジネスアイデアコンテストは開催が見送られた。 　ICT等を用いた実践的授業への取り組みは，商品開発，課題研究，総合実践の科目において展開した。	・オンラインで徳商デパートを開催するなど，新型コロナウイルスの影響を受けながらも，特色ある活動を継続することに努力されている。	⑤ ホームページ作成支援活動や徳商デパートによる商品開発は例年どおりの活動を展開することができた。また，農工商連携による６次産業化プロデュース事業についても，事業をブラッシュアップして来年度には本格実施する予定である。これらの活動経験をもとに，工夫と改善を行い商業の専門高校として特色ある学校づくりに努め，商業教育の中心校として責務を果たしていきたい。

【備 考】評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０ ％未満～７０％以上達成　　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　　Ｅ：６０％未満達成

令和２年度学校評価総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校　Ｎｏ２’

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	
２ 学習指導の改善	（全体レベル） (1) 生きる力を育むため，基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し，学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を図る。 (3) 個性の伸長を図り，専門的な知識・技術を習得させ，スペシャリストへの道を拓く （詳細レベル） ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展	評価指標 【全教科共通】 ・ICTや効果的な教授法を導入して，生徒の主体的で深い学びを導く (国語)・課題提出率98%以上 ・漢検受検者延べ330人以上 (地歴)・課題提出率95%以上 ・広い視野に立って物事を考察できるための基礎的知識と学力の定着を図る (公民)・定期考査得点率60%以上 ・課題提出率95％以上 (数学)・課題提出率100% ・数学の得意度(1~5)調査で1,2年生平均2.8以上 (理科)・単元毎にICTの活用 ・定期考査得点率65%以上 (保健体育)・救急救命法や妊娠，出産に関する講演会の実施 ・生涯体育につながるような運動の基本技術の習得 (芸術)・演奏や作品の発表を2回以上行う。 ・発表では自己評価，相互評価を取り入れる (英語)・全商英検３級合格80%以上 ・ペア及びグループ活動を通して主体的に表現する機会を増やし，相互評価する。 (家庭)・課題提出率100% ・ICTや実験実習を積極的に取り入れ知識の定着を図る	評価指標の達成度 【全教科共通】 ・ICTの活用は定着化し，生徒の主体化な学びに繋がる教授法を工夫しつつある。 (国語)・課題提出率はほぼ100% ・漢字検定受検者は402名 (地歴)・課題提出率95％以上達成 ・基礎的知識と学力が十分に定着できておらず，考察するところまでいかなかった。 (公民)・定期考査得点率60%以上達成 ・課題提出率は95％以上達成 (数学)・課題提出率はほぼ100% ・得意度(1~5)調査で平均2.6 (理科)・ビデオ教材，ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄ等を活用した授業を実施。 ・定期考査の得点率は科目やHRで差があり，50～70%内で推移 (保健体育)・救急救命法及び妊娠・出産についての講義を行った。 ・運動の基本技術を習得することができた。 (芸術)・演奏や作品発表を各学期2回行い，学期末には自己評価，学年末相互評価を取り入れた。 (英語)・全商英検３級合格率は78.3% ペアやグループでの活動を効果的に活用した。 (家庭)・課題提出100% ・グループ学習，実験実習を取り入れ成果を共有した。	評定 B B A B B B B B A	総合評価 B （所　見） 【全教科共通】 ・電子黒板の利用等は進み授業改善に取り組んでいる一方，コロナ禍対応としてのリモート指導の準備については今後の課題である。 (国語) 今年度より漢字検定を1学年は第1回全員受検としたため,受検者,合格者は倍増した。今後は合格率を上げるための対策の方法を検討。 (地歴) 教科書等の準備を徹底したうえに，身近な例から物事を考察する力を育てる必要がある。 (公民) 課題提出等は目標を達成できているが，本質的な学力定着や時事問題への関心度は低い。 (数学) 誤答内容を精査し次回に活かす。苦手意識は減少している。 (理科) ICTの積極的な活用を行ったが，ICTの活用が内容理解につながる確証が得づらい。 (保健体育) 知識や技術を活かす能力を体得させることが課題である。 (芸術) 演奏や作品発表は授業への動機付けになった。ICTを活用して拡大した楽譜や作品を見せたり，演奏技法や制作技法などの映像で理解を深めることができた。 (英語) ICTを活用して資料やデータ，英語音声を提示することで，授業が活性化された。 (家庭) 生徒たちの学びが実生活につながるように教材や時間配当を考え計画していきたい。	・電子黒板・デジタル教科書等の導入で，授業の方法が格段に変わってきている。タブレットの使用についても，生徒が活用できるようにするためには，指導者のスキルアップが必要である。授業方法の技術や資料をシェアするなどの創意工夫をお願いしたい。 一方で，ノートに書くということが極端に少なくなるので，漢字や文章を書く力の低下が危惧される。その点も，考慮した授業展開を考えてほしい。	育成を目指す資質・能力の定着に向け，指導技術や指導方法の情報交換を積極的に行う。また，電子黒板等のICTを活用することにより授業改善を推進する。 学習内容を工夫し，生徒の興味関心を高めるとともに，生徒が協議をしたり自分の意見を言う機会を設定するなど主体的に取り組む授業づくりに努める。 --- (国語) 基礎学力を真に確保できるICT化・アクティブ化を目指す。 (地歴) 教科書や副教材を積極的に活用し，身近な例から課題を考えさせる。 (公民) 今日のニュースを生徒に知らせ，興味・関心を持たせることにより現代社会の課題を考えさせる。 (数学) 個別指導を重点的に実施すると同時に生徒間の活動を更に活発化させる。得意度平均2.9を目指す。 (理科) 教科担任間でICTコンテンツや教材等の共有などを行い，授業スキルを向上させることで，内容理解の深化を図る。 (保健体育) 生涯にわたって活用できる知識や技術の習得を心掛ける必要がある。 (芸術) 生徒の理解を深めるため,ICTの活用を工夫した授業を目指していく。 (英語) 全商英検の合格率を向上させるための継続的な指導が今後の課題である。 (家庭) 家庭科で学んだことが実生活に結びつき自らの生活を見直すことができる力がつくような授業や活動を目指す。
		活動計画　【全教科共通】 ・生徒の実態に応じた授業法の工夫と教科内外での情報交換と協働 (国語)・課題，ノートの点検と評価 ・漢検の受検準備をサポート (地歴)・準備物の徹底を図り，机間指導や提出物の点検等を通して学習状況を把握し，個々への指導を充実させる。 (公民)・課題，ノートの点検と評価 ・の現代社会の課題に興味・関心を持たせる。 (数学)・課題，ノートの点検と評価 ・基礎問題の反復と細やかな指 (理科)・視聴覚教材等の計画的利用 ・生徒の実態把握と問題の精選 (保健体育)・救命法については欠席者にも後日指導を徹底 ・選択種目で自己の課題に応じた取り組みを行わせる (芸術)・個々の生徒の段階に応じた指導を行い，サポートする。 (英語)・電子黒板を利用し効率的に情報を伝える。 ・個々の活動への指導と支援 (家庭)・課題の点検と評価 ・ICTを活用し,実験実習を5/10以上取り入れる。授業の学びが実生活に繋がる指導を行う。	活動計画の実施状況　【全教科共通】 ・教科内での新しい取り組みや情報交換は進みつつあるが，教科を超えた情報交換や研鑽は今後の課題である。 (国語)・課題等の確認により，学習習慣と基礎力の定着を図った。 ・受検者に対策プリントを配布，過去問題集を配置する等,サポートに努めた。 (地歴)・授業中に必ず副教材を持ってきているか確認した。机間指導や提出物の点検を通して，基礎的知識の定着を図った。 (公民)・課題，ノートの点検と評価は的確にできた。現代社会の課題に興味・関心を惹くことはできた。 (数学)・課題，ノートの点検を定期的に実施した。基礎問題の反復練習において個別指導を実施した。 (理科)・電子黒板を利用し,ICTの活用に努めた。調べ学習によるプレゼンテーションや考査前には演習プリントを利用し，生徒の理解力向上に努めた。 (保健体育)・より深い学びの実現のためにICT教材を活用し講義を実施。 ・種目の選択により,それぞれの課題に応じた取り組みを行わせた。 (芸術)・演奏課題，作品において，個々の生徒の段階に応じた指導を行いサポートすることができた。 (英語)・早朝補習（2,3年生），授業(1,2年生)で問題集等を活用し，英検対策を行った。 (家庭)・学びが実生活に繋がっているかどうかの確認は難しいが，生徒たちの積極的な授業への意欲は感じられる。				

令和２年度学校評価総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校　Ｎｏ３

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
３人権教育の徹底	(全体レベル) (1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。 (2) これまでの成果を踏まえ，具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに，課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。 (3) 学校，家庭及び地域社会と連携を図り，生徒の自主的活動を支援する中で，人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。 (詳細レベル) ①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実 ②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③生徒の自主活動の活性化	① 教職員人権研修の実施回数 ４回(４回)	① 教職員人権研修の実施回数 全体研修　３回 学年別研修　６回	A	A	・校外の人権研修大会等が中止される中，市村人権大会を実施し，それに向けて例年より多く事前研修も行っていることは評価できる。	① 新型コロナウイルス禍の中での研修内容やリモートを活用する等，研修の方法なども今後検討する必要がある。
		② 人権問題ホームルーム活動の充実。 具体的な個別人権課題に関する人権学習の実施回数 ４回(４回)	② 人権問題ホームルーム活動の充実。 具体的な個別人権課題に関する人権学習の実施回数　５回	A	(所　見) ① 校内では新型コロナウイルスの影響により，目標回数の研修を実施することができなかった。 1回目　4月28日（火） 人権教育課・教育推進担当，前田綾博 班長による研修 2回目　5月15日（金） 指導案の作成について 3回目　1月 8日（金） 市村人研大会アンケート デートＤＶ防止セミナー		② 人権問題ホームルーム活動に関して，学年会を開き，共通理解を深められるよう今後よく熟考する必要がある。
		③-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数　１回(１回) ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送　５回(４回) ③-3 女川小学校支援活動実施回数 ２回(２回)	③-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加　０回 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発校内放送　３回 ③-3 女川小学校支援活動はテレビ会議により実施　１回	B	② 学年団で共通理解のもと人権問題ホームルーム活動を実施した。 5月 14日(木) 6月 11日(木) 10月 22日(木) 11月 12日(木)大会直前 1月 21日(木) ③-1 新型コロナウイルスの影響により，校外での研修会はすべて中止となった。 ③-2 人権部員が調査研究した内容を全校集会および校内放送で2回発表。 8月　7日(金) 11月 12日(木) 1月 28日(月) ③-3 新型コロナウイルスの影響により，昨年まで継続して取り組んできた環境活動や防災・交通マナーアップ活動や，テレビ会議を活用した女川小学校との交流は例年のようには行うことができなかった。		③ 生徒主体の活動による人権教育は大変効果的である。全校生徒の人権意識を高められる生徒の自主的な活動を継続させたい。 今年度は，新型コロナウイルスの影響のため人権部(PEACH)を始め，校外での研修会がすべて中止になったことが非常に残念である。 来年度は，校外での活動ができるようになることを願う。
		活動計画 ① 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施 ② 教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料作成 ③-1 校外で行われる中高生による人権研修会への参加促進 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動の実施 ③-3 女川小学校支援の積極的参加と支援活動報告	活動計画の実施状況 ① 11月18日（水）徳島市・佐那河内村人権教育研究大会の開催に向けた研修として4月28日（火）に講師として人権教育課の前田綾浩班長を迎えて，全教職員を対象した研修会を実施した。 ＜全職員・生徒対象＞ 12月15日(火) 人権講演会として「デートＤＶ防止セミナー」を実施した。1・2年生はリモート配信を行い，教室で講演会の内容を聞いて人権意識の高揚に努めた。 ② 人権問題ホームルーム活動において，具体的な個別人権課題に関する人権学習を予定通り5回実施した。本年度は，研究大会があったので，大会直前の1週間前に人権ホームルームを実施した。 ③-1 コロナウイルスの影響により，校外での研修会はすべて中止となった。 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動を実施した。 第1回(8/7) 「コロナウイルス」に打ち勝つための心構えについて 第2回(11/12) 「ＳＮＳ」の活用の仕方について 第3回(3学期)「ＬＧＢＴｓ」について ③-3 防災・交通マナーアップなどの活動交流をテレビ会議を利用して実施した。				

【備考 評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０ ％未満～７０％以上達成　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　Ｅ：６０％未満達成

令和２年度学校評価総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校　Ｎｏ４

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
４生徒指導の徹底	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに，家庭との連携を密にし，信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2)基本的生活習慣を確立させ，道徳・規範意識を高め，責任を重んじる態度の育成に努める。 (3)部活動を奨励し，連帯感や愛校心を培い，社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ②基本的生活習慣の確立 ③規範意識の高揚 ④部活動を通した心身の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でリーダーシップを発揮できる生徒の育成	①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(98%) 生徒 100%(85%) ①-2 身だしなみ達成率100 %(98%) ①-3 あいさつ実施率 100%(96%)	①-1 生徒指導理解率 教職員 96% 生徒 100% ①-2 身だしなみ達成率 100% ①-3 あいさつ実施率 98%	A	A （所　見） ① 身だしなみ・挨拶等はきっちりできており，来客者からも高い評価を得ている。数値的にも，ほぼ満足できるレベルに達している。今後とも指導を徹底するとともに，美しい振舞いのできる人間育成に努める。 ② 出席日数に違いはあるが，皆精勤率ともに昨年度より数値は高くなり，目標の数値に近づいた。今後とも高いレベルを維持し，校門前指導等を徹底していく。 ③ 学校全体に高い規範遵守意識が備わっており，意識率も昨年同様，高いレベルで維持することができた。 ④ 1年生の入部率100%は本年度も達成することができた。部活動ごとに中学生との交流会を計画し行った。	・生徒指導理解率が教職員96%は，先生方の生徒指導に対する意識レベルの高さがうかがえる。 ・身だしなみ・挨拶については，ほぼ100%できており，先生方の指導が徹底できている。 ・総体など部活動の大会や競技会が中止となったが，秋以降開催された大会で９の部活動が全国大会・四国大会へ出場したことは，大変素晴らしい。	①③ 引き続き，ＨＲ活動やＳＨＲ時を利用し，人として望ましい振る舞いや行動について考えさせる時間を持つ。また，保護者との連携を図り，個々の生徒に応じたきめ細かい指導を行う。 ② 今後とも皆勤・精勤率の向上に努める。自己の健康管理の重要性を認識させ，絶えず注意を喚起する指導を徹底させたい。 ③ 本年度は，一度も全校集会を開くことができなかったが，学年集会・ホームルーム活動・授業・部活動等学校生活のあらゆる機会を通して，集団生活や社会生活を送るために必要な礼節やマナーを身に付けさせる。また，各学年と連携して生徒の状況把握に努め，啓発活動を定期的に行う必要がある。 ④ 四国大会・全国大会への出場部活動数が昨年度に比べて減少しているため，生徒が部活動に力を注ぎやすい環境を作っていきたい。各部において，今後も切磋琢磨し，全国大会出場部数を増やしていきたい。部活動の成績は，学校全体としての連帯感や愛校心を培うことに繋がってくる。四国・全国大会等で成果が出せるよう，一層取り組んでいきたい。 1年生の入部率は100%であるが，2年・3年と学年が上がるごとに入部率が低下している。部活動に3年間継続して取り組めるように工夫したい。
		②-1 皆勤賞の取得率 50%(40%) 精皆勤賞の取得率 75%(74%) ②-2 遅刻率 1.0%以下(0.3%)	②-1 皆勤賞 47%(1月19日現在) 精皆勤賞 79%(1月19日現在) ②-2 遅刻率 0.3%(1月19日現在)	A			
		③ 校則等の遵守意識率 100%(84%)	③ 校則等の遵守意識率 96%	A			
		④-1 部活動加入率 95% (97%) ④-2 壮行会の開催 ４回（３回） ④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動（18部活動） ④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動（17部活動）	④-1 部活動加入率 98% ④-2 壮行会の開催 中止 ④-3 地域や中学生との交流会の実施 12部活動 ④-4 全国大会・四国大会出場部数（秋以降に開催された大会） 9部活動	A			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 あらゆる機会を通して，美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し，生徒の意識を深化させる。 ①-3 あらゆる場面で，好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。 ②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに，登校指導や月間の遅刻回数が２回を上回らないように目標を設定し，時を守ることに対する意識を高めさせる。 ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して，保護者を交えて面談を実施する。 ③ 面談等で生徒の実態を把握し，学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。 ④-1 部活動加入の継続を図る。 ④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。 ④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。 ④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	①-1 リモートも含めＨＲ活動や行事を通して，商業高校に学ぶ生徒として，より良い社会人となるための基本的な考え方について指導し，理解を促した。 ①-2 各学期および学校行事などの機会を捉えて，各学年での指導を徹底した。 身だしなみ指導実施回数 6回 ①-3 登下校指導やＨＲなどを通して，さわやかな挨拶を交わすよう指導した。 ②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また，少数であるが遅刻を重ねる生徒に対しては，家庭と学年主任･担任が今後の対策を協議した。 ②-2 遅刻指導については，次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。 ③ あらゆる教育活動を通して道徳的な考え方や規範意識を育むよう，指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。 ④-1 学年が上がるほど加入率は下がるが，ほとんどの生徒が最後まで続けていた。 ④-2 新型コロナウイルスの感染拡大防止のために，壮行会は実施しなかった。 ④-3 部活動単位で地域のクラブや中学生との交流が行えた。 ④-4 新型コロナウイルスの影響で四国・全国大会が中止になった競技も多く，出場部数が減少した。				

【備 考 評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０ ％未満～７０％以上達成　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　Ｅ：６０％未満達成

令和２年度学校評価総括評価表

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題		評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
５進路指導の充実	(全体レベル) (1)自己の特性を理解させ，自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。 (2)望ましい勤労観・職業観を育成し，生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現を図る。 (3)進路開拓を推進し，進路先の確保に努める。 (詳細レベル) ①進路指導のガイドライン設定と教職員への周知 ②進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施 ③ICTを活用した進路情報の確実な伝達 ④個別指導の充実 ⑤個性・能力の伸長と適切な進路サポート ⑥求人獲得と職場開拓	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数　21回（21回） ② 校内進路説明会･相談会実施回数　25回（25回） ③-1 進路資料室の利用クラス　45ｸﾗｽ（40クラス） ③-2 全学年新聞週課題　年間15回　新聞日誌　年間 113日 ④ 進路決定に対する満足度　96%（96.0%） ⑤ 補習実施率　100%（100%） ⑥-1 訪問企業数　235社(235社)　会社見学　75社(75社)　生徒　140名(140名) ⑥-2 就職内定率　100%（100%）	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数　37回実施 ② 校内進路説明会･相談会実施回数　32回実施 ③-1 進路資料室の利用クラス　16クラス ③-2 全学年新聞週課題　年間11回　新聞日誌　年間97日 ④ 進路決定に対する満足度　97.7% ⑤ 補習実施率　実施率　100% ⑥-1 訪問企業数　12社　会社見学　70社　生徒　117名 ⑥-2 就職内定率　100%	A A B A B A	A （所　見） ①② 学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握はできたが，共通理解が不十分な点も見られた。1,2年生における段階的な進路指導のあり方をさらに強化させる必要がある。 ③ 新聞日誌・新聞週課題の実施により，習慣的に新聞を読む生徒が増えてきた。今後も，思考力・表現力の強化を目指して継続させたい。また，進路室を有効に活用し，生徒が積極的に進路研究を行う機会をさらに増やしたい。 ④ さまざまな状況の変化に対応するために,特に,3学年と進路指導課との緊密な連携を図りたい。 ② 補習において，資格取得に向けた適切な指導を継続させたい。 ⑥ 生徒の会社見学は,ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については,学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を深めながら今後も100%を目指したい。 入学後からの系統的な進路指導体制の構築が必要である。各学年団と連携しながら，進路希望調査と面談の充実や，早期からの進路研究への意識付けを図りたい。	・昨年も国公立大学進学者を増やすことをお願いしていたが，今年度も実現されたことに対し，先生方の指導に敬意を表したい。国立大ありきではないが，学校が評価される一要因であることは事実である。今後も期待する。 ・コロナ禍で県内求人数が減少したにもかかわらず，そのような状況の中で，就職内定率100%達成できたのはよかった。 ・時代とともに，生徒の仕事や職場に対する価値観が確実に変化している。その動向を教師が理解し，生徒のニーズに沿った進路指導が必要であろう。 ・コロナ禍で訪問企業数は激減したが，生徒の会社見学は，オンラインを含め例年並みに実施できたのはよかった。	①②③④ 学年目標を定め，担任による進路ホームルームを実施する。早期からの進路研究の機会を増やし，ホームルーム担任を中心とした学年団の進路指導体制の充実を図りたい。生徒が自主的に進路活動を進める環境を整え，満足度の高い進路決定につながるように指導を進めたい。 ⑤⑥ 生徒の希望と適性を見極めた適切な進路指導を心掛けたい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施 ② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施 ③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達 ③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入 ④ 進路実現に向けて生徒の意識づけをするガイダンスを実施 ⑤ 早朝補習の実施 ⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施 ⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ，本校の教育活動の全体を通じて展開	① 教室掲示を積極的に行うことにより，適切に情報提供を行った。生徒状況の把握と連携について，学年団と相談しながら，効果的な進路指導を継続させたい。 ② 今年度は，新型コロナウイルスの影響により，ガイダンスの回数が少なくなってしまった。生徒への校内進路説明会・相談会および授業での進路室利用をさらに充実させたい。 ③-1 就職・進学それぞれの資料をわかりやすく整理した。受験報告書を閲覧する生徒が増えた。 ③-2 新聞日誌・新聞週課題を実施することで，特に3年生の面接や小論文試験対策につながった。 ④ 進路実現に向けて，早期からの進路研究体制をさらに整えること，また保護者との共通理解を深める必要がある。 ⑤ 授業再開後の6月～1月末まで実施した。 ⑥-1 10月より就職担当教員企業訪問　12社訪問 新型コロナウイルス感染防止の観点から，訪問ではなく,電話にて情報交換を行った。 ⑥-2 生徒の会社見学を70社実施した。				

【備 考 評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０ ％未満～７０％以上達成　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　Ｅ：６０％未満達成

令和２年度学校評価総括評価表

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
６情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1)施設・設備の充実を図り，情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2)ＩＣＴの活用等により，教科指導の充実や校務の効率化を図り，教育の情報化を推進する。 (3)自国の文化を正しく認識し，異文化との相互理解を深め，国際社会で活躍できる資質を養う。 (詳細レベル) ①ＩＣＴ環境整備の推進と情報モラルの育成 ②ＩＣＴの活用による授業改善と校務の効率化 ③自国の文化及び異文化への理解	① クリアデスク実施率　90%(90%) セキュリティポリシー遵守率　100%(100%)	①クリアデスク　90% セキュリティポリシー遵守率　100%	A	A		
		② ICT活用度 授業でのICT機器利用度　50%(46%) パソコン教室の利用度　90%(98%)	② ICT活用度 授業でのＩＣＴ機器利用度 55% パソコン教室の利用度　90% 共有フォルダの利用度　100%	A	① クリアデスクが十分ではない教員もいるが，概ね良好である。		① 今後も機会ある毎に，繰り返し注意を喚起し，セキュリティのさらなる向上及び，情報漏洩防止に努めたい。
		③ 国際交流活動回数　70回(70回)	③ 国際交流活動回数　64回	B	② ６つのパソコン教室の稼働率は高い。一昨年導入された電子黒板の教科における利用度は年々高くなっている。今後，できるだけ多くの教員が効果的に電子黒板を活用した授業を展開できるよう，推進していきたい。		② 今後も講習会などを開催し，ICT機器を活用した授業実践を推進していきたい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり,情報の漏洩防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け,机上の整理,情報資産の取り扱い向上を図る。 ② 各教科の特性や生徒の実態を踏まえ，ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ③ カンボジア・・生徒の渡航１回 オリンピック選手の受入１回 ジョージア・・生徒の渡航１回 パラリンピック選手の受入１回	①-1 情報セキュリティポリシーを改訂し，情報の漏洩防止につなげている。 ①-2 校内情報セキュリティの向上のためパスワードの強化などセキュリティ強化を図っている。 ①-3 クリアデスクの呼びかけを実施し，情報資産の取り扱い向上につながった。 ②-1 一昨年度より，24教室に電子黒板が導入された。各教科での活用が定着してきている。 ②-2 教員用ファイルサーバ及び共有フォルダ等の活用はほぼ定着した。行事の教室配信など，感染症対策を含めたICT活用を図った。 ③ 海外渡航禁止のため カンボジア・・・生徒の渡航　０回 生徒受入　０回 訪問団受入　０回 ドイツ・・・・・生徒の渡航　０回 生徒受入　０回 ジョージア・・・訪問団受入　０回		③ 新型コロナウイルス感染症の影響により,海外との交流はオンラインのみであった。今年度は共生社会ホストタウンの対象国である「ジョージア」との交流が始まった。 特に，トビリシ自由大学日本語学科の学生やパラリンピアンであるイルマ選手とは,オンラインで度重なる交流が実施できた。	・外国語に触れることや外国人との交流は国際化においては，大変意義深い。こうした取組を通して，海外に興味をもち，将来海外の大学に進学するような生徒が出てほしい。	③ 今年度は新型コロナウイルス感染症のため,ドイツとの国際交流は実現できなかった。 来年度，実施できた場合は，異文化を理解し尊重する態度や能力を持った生徒を育成していきたい。

【備 考 評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０ ％未満～７０％以上達成　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　Ｅ：６０％未満達成

令和２年度学校評価総括評価表

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
７健康・安全・防災環境・主権者教育の推進	(全体レベル) (1)生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2)自他の生命を尊重し，健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3)整理・清掃・整頓・清潔(４S)を徹底して環境美化に努め，奉仕する態度や公共心を養う。 (4)学校版環境ＩＳＯ認定校として実践を推進し，環境問題への関心を高める。 (5)有権者として，自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。 (詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ③校内美化に向けての実践力の育成 ④環境教育の充実 ⑤主権者教育の充実	①-1 食に関するアンケート調査 年１回(1回) ①-2 ３年生を対象として卒業前に「地産地消の料理講習会」を実施する。 年１回 (1回) ①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して,生徒・保護者への啓発を行う。 年2回(2回) ①-4 保健だよりの発行 12回(12回) ①-5 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回 (1回) ①-7 保健室利用者数 (相談対応含む) (878名) 1/28付 ①-8 心肺蘇生法講習会 2回(1回)	①-1 食に関するアンケートを実施し,調理実習などに活用している。 ①-2 12月の球技大会後に実施。 ①-3 11月の文化祭等で展示を実施。 展示 2回 食育通信は, 3回発行 ①-4 保健だより発行 12回 ①-5 ホームルーム活動 1回 ①-6 薬物乱用防止教室 1回 ①-7 保健室利用者数 880名 (1月28日現在) ①-8 心肺蘇生法講習会 1回	A A	A (所　見) ①-1 食に関するアンケートを実施，アレルギー等の確認を行い，３年生は調理実習・テーブルマナー等授業に生かした。 ①-2,3 12月に徳島の郷土料理の講習会を行い３年生22名が県産の食材を使った料理を学んだ。食育通信は,年間を通して,フードデザインを選択している生徒が中心となり食育通信として，季節にあった食生活を示したり，環境に配慮した持続可能な食生活について啓発を行った。 ①-4～8 生徒が抱える健康課題に対して，関係機関と連携しながら，保健指導・講習会等を実施し，適切に対応した。 ② 夏休み中に実施の高校生の防災講習会が中止となり,クラブ員の活動と学びの機会が減り残念に思う。 ③ 環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ，不備な点を修正することができた。 ④-1,2 ゴミの分別，節電・節水を各クラスで呼びかける機会を設けた。身近なクラスメイトが呼びかけることによって気付くところがあったと思う。しかし，電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめとなるので意識を定着させるのは難しい。 ⑤ 講演等だけでなく，ホームルームや授業等において，主権者としての意識を高めることが必要である。また，教員の意識の醸成も必要である。	・保健室の利用者数は,少ない方がよいのではないか。 生徒を相談を含めケアする体制ができているから利用者数が多いということならよいことである。 ・保健室利用者数のカウントを，病気けがとメンタル面での対応を分けた方がよいのでは。 評価指標として来年度は見直しが必要。	①-1 食生活への関心が高いということを活用して,地産地消や食品ロスを考える食育だよりの充実を図りたい。本年度の状況を踏まえきめ細やかな指導を継続して行う必要がある。 ①-2,3 生徒が食生活を見直せるような呼びかけとして,生徒自身でできる方法を考えて実践につなげていきたい。 ①-4～8 健康に好ましい生活習慣を築き，自己管理できる生徒を育成するために指導を継続する。 ② 12月に行った避難訓練と防災講演会のアンケートの結果，避難訓練によって津波の際の避難場所がわかったと回答した生徒が98.5%また,講演会を聴いて自分の安全を守ることができると回答したした生徒は95.8%であった。身近に防災，減災を感じ実践力をつけるために100%を目指したい。 ③ 各教室のゴミ箱の設置や分別の状況を知る上で役立った。今後も継続していく。 ④-1,2 ゴミの収集場所を徹底していく。新年度より水・電気の使用量をグラフにして教室掲示を行い，節水・節電を呼びかける予定。 ⑤ 学校全体として主権者意識の醸成を図る。
		② 防災啓発活動の実施 年2回(2回) ③ 清掃状況の点検と改善 年6回 (6回)	② 9月2日防災アピールは中止 12月に避難訓練と講演会を実施 ③ 清掃活動の点検 ６回実施	A			
		④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導 (常時) ④-2 節電・節水の推進を図る。毎月の使用量を教室,廊下に掲示 (常時)	④-1 常時担当教員が指導している ④-2 各教室に掲示し，節電・節水を呼びかけている。	B			
		⑤ 講演会や生徒による発表会を行い,主権者としての意識の醸成を図る。 年2回(3回)	⑤ 3年生による主権者教育の発表を各学年で実施した。模擬投票は行えなかったが，授業等により意識醸成は行っている。(年3回)	B			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康，食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 PTA総会,文化祭の時に実施予定。 ①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う) ①-5 生徒の課題である健康問題を取り扱い，生活の改善を図る。 ①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-7 健康・安全に関する意識を高め，けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行う。 ①-8 講習を通じて救命についての意識，実践力を育成する。 ② 防災クラブ (生徒会・家庭クラブ)が中心となり，全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③ 環境委員が清掃状況チェックを行い，自己評価し改善に生かす。 ④-1 環境委員がゴミ分別状況調査を行う。 ④-2 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ ホームルーム活動や主権者教育に関する資料の配付や発表会,講演会等により，自らがより国家を構築する主権者であることに気づかせ意識を深化させる。	①-1 食に関するアンケートを実施した。 ①-2 小麦粉を使った料理コンクールへの参加。３年生全員が出品した。 ①-3 健康に関する販売・展示を通して情報発信を行った。 ①-4 保健だよりの発行，文化祭保健展，掲示物等を通して健康に関する情報を発信した。 ①-5 11/26ホームルーム活動を実施し，心身の健康づくりのための取り組みを行った。(1年生活習慣･2年メンタルヘルス･3年けがの予防) ①-6 2/16に警察署スクールサポーターを講師に迎え，薬物乱用防止教室を開催した。 ①-7 保健室利用者に対し，必要に応じた個別指導を通して，健康づくりの取り組みを行った。 ①-8 2/15,16に１学年を対象に，普通救命講習を実施した。 ② 9月2日は授業日となり,防災アピールを行うことを中止した。 ③ 1学期には2回行った。身の回りの環境や節電・節水を気遣えるように定期的に実施していきたい。 ④-1 清掃時ゴミ出しの場所に担当教諭と係生徒が立ち，ゴミの分別をチェックした。 ④-2 電気の使用量・水道使用量をグラフにして各教室に掲示し節電節水を呼びかけ，自分たちにできることを考える機会を作った。 ⑤ 3年生による発表会を各学年ごとに実施した。また，授業等においても主権者としての意識醸成に努めた。				

【備考 評価における「評定」の基準】Ａ：１００％達成　Ｂ：８０％以上達成　Ｃ：８０％未満～７０％以上達成　Ｄ：７０％未満～６０％以上達成　Ｅ：６０％未満達成